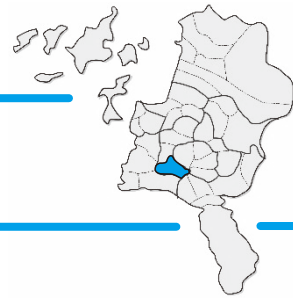


ゆうぐん 雄郡地区

人口: 32,662人(高齢化率24.5%)
世帯数: 17,457世帯

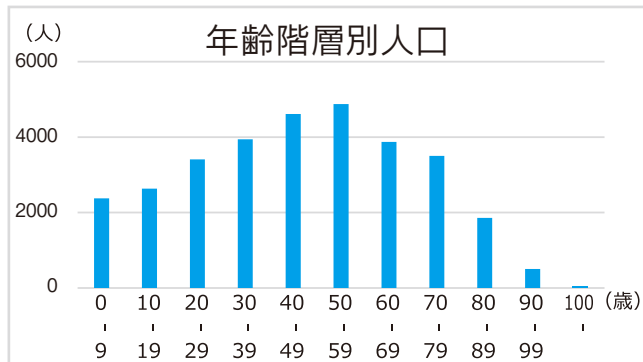


【地区の特色】

農地の宅地化、マンション化が急速に進み、市内でも人口が多い地区である。シンボルは「子規の歩いた道」で、子規によって俳句が詠まれた句どころ(雄郡神社・末広町の正宗寺など)も多い。郷土の芸能では竹原町・針田町の獅子舞が保存会により演じられており、義士祭・福運祭などがにぎやかに行われている。地区の木は「榿の木」で、花は「サルビア」である。近年は都市化が一段と進んでいるが、今なお伝統や文化を大切にする気質が残っている地域である。



サルビア夏祭り



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・松山市中心部に位置し、住宅地区と商業地区が共存しており、生活しやすい ・サロン活動が活発である・地域、学校、PTAなど各団体が協力している ・保育園、幼稚園、学校施設が多く所在し、子どもを育てやすい ・郡中線により中心部との行き来は便利・災害が少ない ・雄郡公民館と連携して充実した活動ができている・Re再来館の活動が盛ん ・歩道が整備されつつある・水質がよいため井戸水を使用しているところもある ・まちづくり協議会が中心となり三世代交流や芝居、認知症カフェなど行事が盛んである
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・地区が広いこと事業活動の分割を余儀なくされ、一カ所で事業を行うと参集しにくい ・人口に対して交番が少ない・西部は交通が不便なところがある ・マンション、駐車場が増え住民のつながりが希薄になりやすい ・放置された田畑や空き家が増えている・場所によっては歩道の整備が不十分 ・消防や救急車が入れないような木造の密集家屋が多い場所も存在する ・ボール遊びをする場所がない・高校生の自転車の通学(交通)マナーが良くない ・独居高齢者は増えているが高齢クラブに入会する人数は減少している
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・会員の高齢化が進み、高齢クラブやふれあい・いきいきサロン数が減少 ・地域が広く、一人暮らしをしている人や生活困難者の把握がしにくい ・マンション住民と地域住民との関係が希薄になりやすい ・個人商店が減って、高齢者等の買い物困難者が心配される ・ゴミ出しが困難な高齢者がいる・空き家対策 ・建替えできない家屋や狭い道路が多い場所がある・飼い主のいない猫の対策 ・世話役など中心的な役割を担う人を見つけにくい(町内会の役員になる人がいない)

雄郡地区社会福祉協議会 こころをつなぐ”絆”まちづくり

<拠点> TEL:080-4037-0294

構成団体	自治連合会・まちづくり協議会・公民館・分館・地区民協・高齢クラブ連合会
------	-------------------------------------

主な取り組み	活動内容
福祉だよりの発行	年3回12,000部を作成し、回覧板で地域福祉に関する情報を発信しています。小中学校にも配布し、家庭へ持ち帰ってもらうことにより地域の情報を幅広く周知できるよう工夫しています。
交流会の開催	サロン代表者会や活動研修会などで体操や脳トレーニングを学び、小学校4年生との認知症サポーター養成講座や認知症カフェ、ディスコン大会を開催するなど交流を深めています。
福祉講座の開催	地域で暮らしていくために、まずは地域を知るところからと考え、年数回、専門講師による認知症などの学習を行っています。

認知症キッズサポーター養成講座

地区内3つの小学校で4年生を対象に、毎年講座を開催しています。地域包括支援センター雄郡・新玉の協力をいただき、市社協とも連携して、今後増えていくと思われる認知症の人にどのように声かけしていけばみんなが安心して暮らしていけるか、主体的に考えるきっかけとなり、助け合いの絆を育んでいます。



<地区社協が目指すもの>

雄郡地区では田畑の宅地化やマンション建築が急速に進み、子育て世代の人口が増えています。また、生活に困難を抱える高齢世帯も増加しています。高齢者にとって住みよい地域は障がいのある方や子どもにとっても住みよい地域となると考え、地域住民がお互いさまの気持ちで支え合える絆づくりを大事にしています。たとえ認知症になっても安心して暮らせる地域となるよう、公民館、まちづくり協議会、高齢クラブ、地区民協、小中学校と協働して福祉活動への参加をつないでいきたいと考えています。

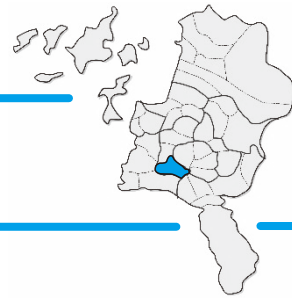
地区の状況	■地区民協	48名 3名	■町内会・自治会・区長会等	26団体
	民生委員		■高齢クラブ	7クラブ
	主任児童委員		■子ども会	23団体
	■まち協の設立	平成21年度	■自主防災組織	41組織

松山市駅があり交通アクセスが良く利便性に富んだ都市であると共に、多くの小学校や高校が集まる文教地区でもあります。それゆえ子どもたちを対象にした「認知症キッズサポーター養成講座」や「交流会」の開催は、地域にとっても重要な意味を持つこととなります。子どもたちは、近隣の認知症高齢者に限らず様々な年代、立場の人々とコミュニケーションをとる中で、多くの価値観に触れ他者を思いやる気持ちや多様性を尊重することの意味を知ります。さらに地域住民との交流は、地域やそこに暮らす他者を知ることによって地域への愛着にもつながることでしょう。この積み重ねが地域の福祉力向上につながると考えます。



あらたま
新玉地区

人口: 11,231人(高齢化率28.6%)
世帯数: 6,620世帯

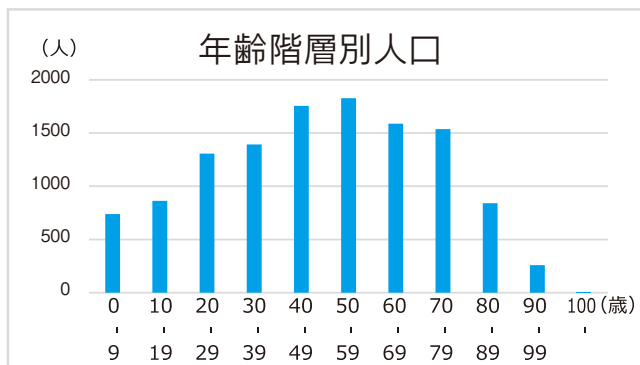


【地区の特色】

新玉地区は、松山市の陸の玄関口JR松山駅を中心に東西南北に広がっている。西側地区は農・商・住宅地であり文化遺産も多い。東側地区は商工地域とともに都市型に発展しており、両地区の生活環境が相まって文化度も高い。特に組織間での連帯感が強く、調和のとれた地区である。



日本唯一のダイヤモンドクロス(大手町)



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館が地区の中心地にあるのでみんなが集まりやすい ・交通の便が良い ・住宅地では顔見知りも多く声かけがしやすい ・地域の一体感がある ・地区内の各団体と連携が取れている ・防災大会への参加者が多い ・防災の意識が高い ・住環境が整っている(病院、スーパー、食事所、文化施設など) ・地域の広報誌が充実している ・災害が少ない ・コミュニティーセンターがある
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・マンションの住人等地区のコミュニケーションが少ない ・サロン等への男性の参加が少ない ・商店が減っている ・商業地域なので住宅地が少ない ・危険箇所がある(宮前川処理場附近) ・災害のとき集合場所が少ないので遠くていけない(高齢者等) ・独居高齢者や高齢者のみ世帯の増加 ・後継者や担い手不足 ・空き家が増加している ・一部地域によっては住居からスーパー等が遠く、高齢者等の買い物が不便
地域が抱える福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・中心地のためマンションが多く、住民間の交流が少ない ・オートロックマンションや外出しない高齢者の安否確認が難しい ・緊急連絡先になりたくない家族等、身寄りの無い高齢者がいる ・関わってほしくない独居高齢者がいる ・見守りの対象とならない高齢者夫婦が心配 ・日中独居や近くに家族がいる高齢者の安否確認 ・高齢者や子ども等はフライブルク通りを渡るための地下道が利用しづらい(体力面・防犯面)

新玉地区社会福祉協議会 新玉に 笑顔の福祉 広げよう

構成団体	地区民協・公民館・自治連合会・まちづくり協議会・食生活推進協議会・高齢クラブ連合会 青少年健全育成連絡協議会・交通安全協会・ボーイスカウト・小学校・中学校
------	--

主な取り組み	活動内容
れんげ草まつり	毎年4月に地区の畑をお借りして、新小学1年生と高齢者など地域の方が集まり、沢山のれんげの花に囲まれ、かんむりや首飾りなどを作り、交流を深めています。
ふれあい料理教室	年に5回、地域の高齢者と一緒に調理し、食事やゲームなどで交流を図っています。
福祉講座や研修会の開催	高齢者の生活に関するテーマに沿った講演を年2回実施しています。また、福祉施設等への見学を1日研修として行っています。

年末独居高齢者訪問(12月)

年末にボーイスカウトと一緒に独居高齢者を訪問しています。地域の小中学生が祖父母に宛てた敬老作文「おじいさんおばあさんお元気ですか」(冊子)と、ボーイスカウト手作りのプレゼントを配布しています。毎年の訪問を高齢者はとても楽しみにしています。



<地区社協が目指すもの>

JR松山駅周辺では開発が進んでおり、地区の環境や景観も大きく変わっています。JR予讃線の高架化事業は令和6年秋には完了し、東西交通の安全性と利便性が向上して、今よりもっと住みやすくなります。今後、駅周辺の開発が進むと人の交流や人口増加も予想され、益々魅力ある地域へと変化する事でしょう。地区には、文化とスポーツの拠点となる松山市総合コミュニティセンターがあります。また、憩いの場でもある松山総合公園にも隣接した地域です。地区社協は「新玉に 笑顔の福祉 広げよう」の理念のもと心豊かな地域を目指します。

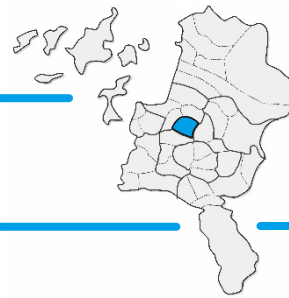
地区の状況	■地区民協	25名 2名	■町内会・自治会・区長会等	24団体
	民生委員		■高齢クラブ	5クラブ
	主任児童委員		■子ども会	9団体
	■まち協の設立	平成27年度	■自主防災組織	4組織

松山の玄関口となるJR松山駅があり、そこを拠点とし市内各地へと移動できる交通の利便性が良い地区です。マンションが立ち並び住民間の交流が少ないことや、高齢者世帯が増加し空き家が目立つなど課題を抱えていますが、各団体の組織力と地域住民相互の連携によって日々の暮らしが展開されています。「年末独居高齢者訪問」は、独居高齢者にとって地域の一員であることを確認できる機会であると共に子どもたちにとっては毎年、敬老作文を書くことで年長者を敬う気持ちや他者を思いやる豊かな心の醸成につながっています。また、子どもの遊び場も充実しており、子育て世帯にとっても「子どもの健やかな成長を育む」には最適の環境といえるでしょう。



しみず 清水地区

人口: 22,556人(高齢化率26.5%)
世帯数: 13,359世帯

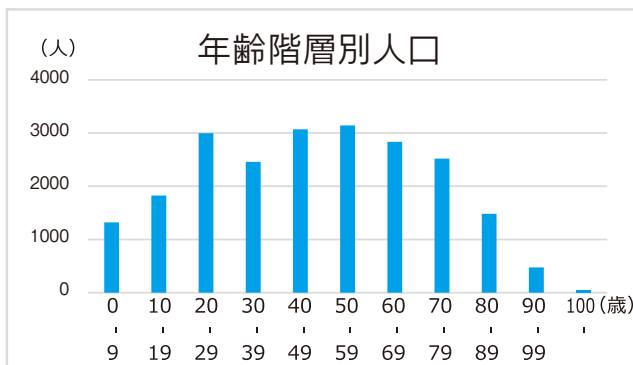


【地区の特色】

清水地区は、六つの小・中・高・大学がバランス良く配置された文教地区であり、加えて松山城の築城最高責任者であった足立重信の墓所、そして日露戦争で捕虜となったロシア兵を温かく迎えこの地で亡くなられた方を手厚く葬っているロシア兵墓地がある。放浪の俳人山頭火の終の住処となった一草庵を始め、由緒ある神社仏閣等の文化遺産も数多くあり、まさに躍動する新しい町と歴史の町がうまく融和し発展している地区である。



一草庵



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・いきがい交流センターしみずに拠点があるため民生委員・児童委員や地域包括支援センターとのつながりが強い ・清水公民館や清水ふれあいセンターの催し物が多く地域の人に参加しやすい ・小、中学生の登下校の見守りができている ・水がきれい ・各組織の協力体制ができている ・自主防災意識が高い ・地域福祉サービス事業などの助け合い活動が盛ん ・空き家の改修が進んでいる ・ボランティア活動が活発 ・大学生の地域行事への参加 ・ゴミステーションの担当割等のルールが整備され、ゴミ出しのマナーが改善されている
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・マンションも多く隣人との付き合いが少なくなっている ・組織役員(町内会長等)の担い手不足 ・町内会の行事が少ない ・坂が多い区域がある ・交通の不便な区域がある ・一部地域にはスーパーがないところがある
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、独居高齢者の増加 → 住民の高齢化(地域でお世話する方の減少) ・短期居住者(大学生)との関係性が希薄 ・交通の不便な区域がある ・買い物に不便な地域がある ・移動スーパーの必要性が高まる ・認知症高齢者の対応 ・見守りが必要な世帯の増加 ・エリアによっては子どもの減少が見られる ・組織役員(町内会長等)の担い手不足 ・ゴミ出しが難しくなる ・働く場所が少なくなる

清水地区社会福祉協議会 ささえ合う 福祉のまちや 清水の輪

<拠点> 松山市清水町3丁目15番地 清水小学校北校舎2階 TEL / FAX:089-916-9179

構成団体	地区民協・町内会連合会・公民館・高齢クラブ連合会・女性防火クラブ・PTA まちづくり協議会・自主防災組織・子ども会
------	--

主な取り組み	活動内容
ふれあい教室(7教室)	60歳以上の方を対象とした趣味活動の場であり、交流を通じて住民同士の助け合い活動に繋がっています。(コーラス、絵手紙、書道、太極拳、茶道、英会話、フォークダンス)
地域住民と小学生との交流	一緒に給食を食べたり、もちつきや昔の遊びを“地域の名人”の高齢者に学んだりして小学校の各学年との交流を促しています。
福祉講座の開催	頭や身体を使った体操やワークショップを取り入れるなど、年2回テーマを話し合って開催しており、福祉だよりにて周知啓発しています。

しみず祭(4月)

毎年4月の第3日曜日に、いきがい交流センターしみず及び清水小学校を会場として「しみず祭」が開催されています。ふれあい教室の発表やうどん、おはぎ、コーヒーなどの提供、高齢者と子どもたちによるステージ発表など関係団体・地域の皆様のご協力もあり、毎年500名を超える来場者が交流を深めています。



<地区社協が目指すもの>

清水地区は他地区同様、今後想定される少子高齢化・人口減少を最優先課題として捉え、区内の各種団体との連携を図り、地区の特性でもある学生が多く住む街、新興のマンションや集合住宅の増加という問題に対し、住民同士の連携、コミュニケーションの強化を真剣に考えていきます。そして「歴史と文化と自然のまち清水」に住んで良かったと言える地域づくりを目指し、「いきがい交流センターしみず」に拠点を置く清水地区社会福祉協議会が、地域の交流の場・コミュニティの場となることを願います。

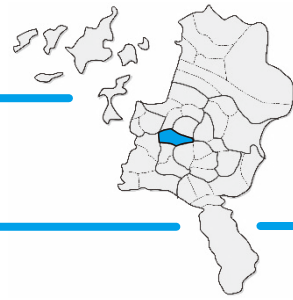
地区の状況	■地区民協	48名 3名	■町内会・自治会・区長会等	88団体
	民生委員		■高齢クラブ	5クラブ
	主任児童委員		■子ども会	4団体
	■まち協の設立	平成27年度	■自主防災組織	36組織

清水地区は小学校、中学校、高校、大学など多くの教育施設が立ち並ぶ文教地区です。そのため学生層の住民が多く今後の人口減少や高齢化を鑑み彼らを巻き込みながら地域福祉活動を推進していくことが重要といえるでしょう。そうした観点から考えると「しみず祭(4月)」は、地域住民や関係団体が連携して開催することで、これらの活動を通して若い世代が地域の文化を理解し、また世代を超えた相互理解の場であり人間関係の形成の場ともなっていることでしょう。「しみず祭(4月)」を含めた様々な活動を維持し発展させることにより、地域住民の連帯や地域のアイデンティティを醸成することにもなるでしょう。



みさけ 味酒地区

人口: 20,625人(高齢化率26.6%)
世帯数: 11,970世帯

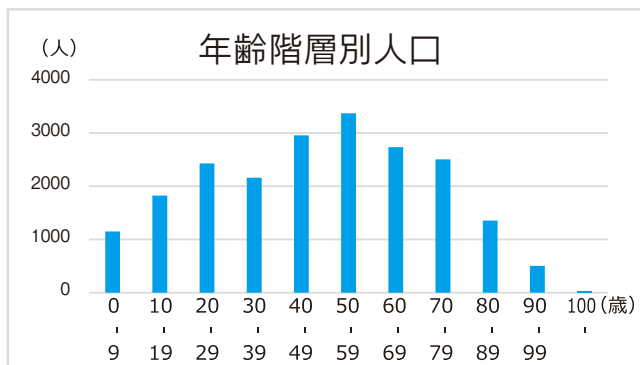


【地区の特色】

味酒地区は、十五万石の城下松山の西部にあつて城下町として栄えた地区であり、数多くの文化財や史跡が残っている。代表的なものとしては、全国に名の知れた俳人 栗田樗堂(くりた ちよど)が寛政十二年に建てた庚申庵がある。ここで樗堂は松山の俳人と句作を楽しんだとされている。なお、この庵は平成15年5月に改修整備を終え、史跡庭園として現在開園している。



大嶺ヶ台(西山)



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> ・病院、福祉施設、生活関連施設が充分あり自然豊かで生活しやすい地域 ・陸海空交通の便が良い ・水がよい ・災害が少ない ・教育機関(小、中)の活動が活発で、遊び場や子どもの数も多く地域に元気がある ・児童の見守りができている(校庭にある児童クラブが大きい) ・青パト活動等地域の団結力が強い ・寺などの地域資源や物知りが多く、人の繋がりのある地区
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・協力会員数が少ない→ゴミ出しについて善意の協力をしてくれる人がほしい ・交通量が多い、道が狭い、坂が多い ・バスの路線変更、市内電車路線の廃止、電車の本数が少ない等の問題がある ・マンションが多く建ち、近隣者のお付き合いが希薄 ・町内会に入る人が少ない ・独居高齢者の存在が明確でない
地域が抱える福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> ・独居高齢者増 ・転入者が多く、地域コミュニケーションが取りにくい ・経済的な支援を必要とする人が増えてきた ・空家が多い ・防災防犯に課題がある ・地域の団結を強めていくためのリーダー育成が必要 ・避難所が少ない(見直しが必要) ・経済的に厳しい家庭が増える ・味酒小学校を中心に東方面に集会所があればよい

味酒地区社会福祉協議会

ささえ合い 心をつなぐ

うまざけ

味酒の

和・話・輪

<拠点> 松山市若草町8番地2 松山市総合福祉センター内3F

構成団体	地区民協・公民館・高齢クラブ連合会・町内会連合会
------	--------------------------

主な取り組み	活動内容
福祉だよりの発行	年2回14,000部を作成し、地域福祉に関する情報や地区の貴重な人材についての紹介などを掲載し、回覧板にて全戸配布しています。
味酒小学校で敬老会	75歳以上の高齢者を対象に5月に開催し、お弁当を食べながら演芸発表などを楽しみ交流を深めています。
サロン活動の支援	いきいきサロン4カ所、緩和型サロン2カ所の支援を継続して実施し、介護予防や住民の交流の場の促進に努めています。

福祉講座の開催

地域住民の生活に関するテーマを設定し、年3回実施しています。「特殊詐欺の被害に遭わないために」「くすりと健康」「DV、児童虐待、気づいてつなぐ!」など時代に沿ったテーマを住民の視点から取り入れています。



<地区社協が目指すもの>

味酒地区社協は、今までの実践を大切にしながら、新しく天災地変時に生じやすい大峰ヶ台山麓、宮前川両所の再度点検と避難所への誘導方法について検討し今後盛り込んでいく予定です。また、地域での福祉活動が絵に描いたもちにならないよう、一緒にスクラムを組み取り組んでくれる人材の確保に努めなければならないと考えます。そのためにも福祉だよりの発行や福祉講座等を利用し、公民館、まちづくり協議会、町内会連合会、高齢クラブ、学校、その他地区内の関係団体との協力関係を築き、人間同志の心と心を密にする事こそを活動の最大の目標とします。

地区の状況	■地区民協	40名 3名	■町内会・自治会・区長会等	62団体
	民生委員		■高齢クラブ	6クラブ
	主任児童委員		■子ども会	2団体
	■まち協の設立	平成28年度	■自主防災組織	24組織

かやまち商店街をはじめとした商業施設が立ち並ぶ一方で、医療・福祉関係施設が充実しており市内中心部に近いことから、地域住民の多様な生活パターン(ライフスタイル)が混在しているため支え合いのかたちも多様な活動が求められる地区です。「福祉講座の開催」は、地域住民の生活に関するテーマで開催し、年代・性別・職種を問わず「共に暮らす」なかで課題となる項目が選定されています。また転入者が多く地域コミュニケーションがとりにくいことが課題としてありますが、「防犯・防災」は、地域住民にとって共通課題であるためこのようなテーマを切り口に、子育て世代を含めた多世代との交流を展開してみるとさらに良いでしょう。

